

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆっつら〜と		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101-3		
自己評価作成日	令和元年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年9月4日	外部評価確定日	令和元年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立・快適・安心をグループホームゆっつら〜とのモットーとして、自然豊かな環境の中で、自立して「自分のペースで」「自分らしく」「快適に」「安心して」生活してもらえるように取り組んでいます。 各棟の処遇理念を実践することにより、ゆっつら〜とのモットーがより実現するよう努めています。 介護計画については、個人の生活歴や生活スタイルを理解し、個々を大切に支援出来るように努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は市街地から少し離れた長閑な環境の中にある。周囲は自然豊かで民家も多い。職員の入れ替わりが少なく、希望休には全て応える姿勢があり、職員も安心して働けるような職場づくりを行っている。また、ヒヤリハット事例では記入用紙が身近にあり、小さなことでもすぐに記入し共有することを旨としている。後の大きな事故を防ぐためという考えからである。職員の年齢や経験によらず、良いところは互いに見習うという気風も各自の成長へと繋がり利用者へ還元されている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで、自分らしく・快適に・安心して生活できるように支援する。安全・安心・信頼を掲げ、実践に繋げている。	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで、自分らしく・快適に・安心して生活できるように支援する。安全・健康・オンリーワンを掲げ、実践に繋げている。	旧経営者から引き継ぎ、新しい体制となって7年目を迎えている。理念は、数年前に状況に応じたものに変更すべく職員みんなで話し合い作り上げている。各ユニットの想いを端的な言葉で表しており、玄関への掲示や折に触れ言葉にすることで意識付けを図っている。事業所には年齢や経験に関わりなく、互いの良いところを見習う気風もあり、日々のケアに活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域の祭りに参加したり、回覧板も回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の清掃活動等にも参加している。地域の保育園や幼稚園の訪問もあり、お遊戯や手遊び等にて交流を図っている。又、ボランティアの方々との交流も図っている。	利用者と地域の祭りに参加したり、回覧板も回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の清掃活動等にも参加している。地域の保育園や幼稚園の訪問もあり、お遊戯や手遊び等にて交流を図っている。又、ボランティアの方々との交流も図っている。	自治会に加入しており、地域の一員として清掃活動等にも積極的に参加している。介護のプロとして、認知症への不安や問い合わせにも気軽に立ち寄ってもらえるよう門戸は常に開いている。今後は回覧版を活用した情報発信も検討中である。近隣住民からは野菜が届けられることもあり、見守りや緊急時には応援を頼める関係も築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらうよう努めている。	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらうよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設の利用状況や行事や活動を報告、地域の情報を聞くことにより、サービスの向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設の利用状況や行事や活動を報告、地域の情報を聞くことにより、サービスの向上に努めている。	市担当の他には地域役職の方々、また家族代表の方もメンバーであり、概ね40分程の会議である。事業所からの報告だけではなく双方向な意見交換の場となっている。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もある。現在、家族の出席は代表者のみだが、今後は全家族に参加を募ることも検討している。ヒヤリハット事例も公表し、疑問質問にも答えている。自己評価では、この会議を通じて地域との繋がりが少しずつ増えていると答えている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告をおこない、分からない事は尋ねている。	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告をおこない、分からない事は尋ねている。	運営推進会議のメンバーでもあり日頃から顔なじみでもある。会議の案内状は敢えて直接届けている。疑問等の問い合わせには法人母体にも人材やスキルはあるが、市担当者との協働体制も大切にしている。実直に対応してもらえる関係は築けている。また、2か月に一度、介護相談員の訪問もあり、利用者と事業所の橋渡し役として想いを聞き取り、伝えてくれることを期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	赤外線センサーを活用して危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりを目指している。どうしてもベッドからの転落等の事故が起こる危険性のある方は、ご家族と相談し対応を検討している。身体拘束防止委員会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。又、外部の研修にも参加している。	赤外線センサーを活用して危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりを目指している。どうしてもベッドからの転落等の事故が起こる危険性のある方は、ご家族と相談し対応を検討している。身体拘束防止委員会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。又、外部の研修にも参加している。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。研修に参加した職員は、戻ってから勉強会の役目も担い全員に周知している。止む無く拘束となる事案が発生しても、家族の承諾を理由に正当化することはない。止めるための工夫や方法を毎月の検討委員会で話し合っている。玄関に施錠はなく、職員の見張りや常に人数を数える習慣もあり、安全な暮らしを支援している。仮に外へ向かう利用者があっても行動を抑えることはなく、納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、高齢者虐待防止委員会を実施し、理解を深めている。外部の研修会への参加や、他職員との勉強会も実施している。	毎月、高齢者虐待防止委員会を実施し、理解を深めている。外部の研修会への参加や、他職員との勉強会も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		現在、1名が成年後見制度を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて、分かりやすい様に説明している。変更があった場合も説明をおこなっている。	契約書・重要事項説明書にて、分かりやすい様に説明している。変更があった場合も説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や面会時に意見や要望を聞いている。普段から電話等にて利用者の状況報告もおこなっている。	介護計画作成時や面会時に意見や要望を聞いている。普段から電話等にて利用者の状況報告もおこなっている。	ユニットにより片寄りはあるが概ね来所は多い。遠方であったり、なかなか来られない家族とは電話による近況報告を行っている。毎月の利用料明細を送付する際には行事や雰囲気伝わればとホーム便りも同封している。家族と直接会話が出来る機会は特に大切にしており、世間話等を交えながら話しやすい雰囲気作りを努めている。敬老会と同日には家族会を開き、家族同士の親睦や事業所への意見要望を汲み取ろうとしている。事業所の外にも苦情や相談窓口があることは書類に明記され、入居時には説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティング(職員会議)を実施しており、職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月、ミーティング(職員会議)を実施しており、職員の意見を聞く機会を設けている。	ユニット合同の職員会議は約一時間、休みの職員も殆どが出席して開かれている。全員で行うカンファレンスも含まれ、利用者のことは共有されている。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として、今後は事前に意見を募ることも検討される。管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、体調を気遣い声を掛けたり、希望休には全て応える方針を保っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努めている。細目に管理者・職員との面談を持ち、要望を聞き取っている。	代表者は、職場環境・条件の整備に努めている。細目に管理者・職員との面談を持ち、要望を聞き取っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所内で、毎月勉強会をおこなっている。又、外部の研修にも参加している。	各事業所内で、毎月勉強会をおこなっている。又、外部の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの入居相談後、入居前に自宅や施設、病院を訪ね本人にお会いし、現状の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。	家族からの入居相談後、入居前に自宅や施設、病院を訪ね本人にお会いし、現状の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等に管理者及び計画作成担当者が、現状の家族の負担や困りごとをお聞きし、事業所のサービスや費用等について説明をおこなっている。	入居相談時等に管理者及び計画作成担当者が、現状の家族の負担や困りごとをお聞きし、事業所のサービスや費用等について説明をおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、もっとも必要とされるサービスの照会をおこなっている。	相談内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、もっとも必要とされるサービスの照会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に洗濯物干しやたたみといった家事作業や様々な活動をおこなっている。利用者同士の雰囲気も良い。教えられることや、まだ出来る事の発見もある。	利用者と共に洗濯物干しやたたみといった家事作業や様々な活動をおこなっている。利用者同士の雰囲気も良い。教えられることや、まだ出来る事の発見もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来るよう努めている。日頃の様子を面会時に伝えたり、施設が作成する新聞等で報告している。面会時には居室や居間にてゆっくりと過ごしていただいている。外食や外出されたり、受診の付き添いをされる方もおられる。	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来るよう努めている。日頃の様子を面会時に伝えたり、施設が作成する新聞等で報告している。面会時には食事やトイレの介助をして下さるご家族もおられる。外食や外出されたり、受診の付き添いをされる方もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃より馴染みの場所について話題の中に盛り込んでいる。知人や友人の方が面会に来られることもあり、居室にてゆっくり過ごしていただくようにしている。家族写真を持参されている方もいる。ご家族と電話でお話していただくこともある。	日頃より馴染みの場所について話題の中に盛り込んでいる。知人や友人の方が面会に来られることもあり、居室にてゆっくり過ごしていただくようにしている。家族写真を持参されている方もいる。ご家族と電話でお話していただくこともある。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。きちんと把握するためには継続して話を聞くこともある。具体的な例として電話の取り次ぎはいつでも可能であり、盆正月の帰宅や外出等への支援が挙げられる。理美容は殆どの方が訪問サービスを利用しているが、馴染みの店へ家族と通う利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、居間や食堂の席の位置を配慮している。職員が間に入り、話題を提供している。男性入居者もおられる為、食堂では男性と女性でテーブルを分けて様子をみている。	利用者同士の関係を把握し、居間や食堂の席の位置を配慮している。職員が間に入り、話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族から連絡があったり、施設の方から近況を尋ねたりしている。他施設や病院へ移られた方のところへ面会に行き、様子を尋ねている。	退所された方のご家族から連絡があったり、施設の方から近況を尋ねたりしている。他施設や病院へ移られた方のところへ面会に行き、様子を尋ねている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向を把握するように努めている。意思疎通の困難な方や自分の思いをうまく話せない方については、普段の態度や表情などの様子を見て意向を読み取る様に努力している。	利用者の思いや意向を把握するように努めている。意思疎通の困難な方や自分の思いをうまく話せない方については、普段の態度や表情などの様子を見て意向を読み取る様に努力している。	利用者が想いを話してくれるのは入浴中の寛いだひとときや、隣で話し相手をしている時に多い。視線を合わせることやスキンシップは気持ちを和ませる術であり職員の心掛けである。また記録簿等の記入を敢えて隣で行うことで見守りや会話のきっかけにもなっている。聞き取ったことは申し送りノートや記録簿、また口頭でも共有され、そこからケアプランに反映させた例もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。一度や二度の聞き取りでは見えてこない部分もあるため、随時聞き取りを続けていき、生活の中に活かしていくように努めている。	利用者本人や家族からの聞き取りにて状況把握に努めている。一度や二度の聞き取りでは見えてこない部分もあるため、随時聞き取りを続けていき、生活の中に活かしていくように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来る事・出来ない事や心身の状況の把握に努め、個々のペースを大切にすることを心掛けている。	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来る事・出来ない事や心身の状況の把握に努め、個々のペースを大切にすることを心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見、かかりつけ医師の意見、ケアプラン評価や総合評価は介護職員や看護職員の意見を聞きながら評価し、介護計画の作成をおこなっている。サービス担当者会議を実施している。	利用者・家族の意見、かかりつけ医師の意見、ケアプラン評価や総合評価は介護職員や看護職員の意見を聞きながら評価し、介護計画の作成をおこなっている。サービス担当者会議を実施している。	ケアプランの見直し期間は様々で、入居間もない頃は毎月、その後、3か月毎、6か月毎と延びていく。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族からは現状維持を願う声が多い。年を重ねる毎に体力の低下は否めないが、出来ることをやらせてもらうなど様々な手法を組み合わせて支援している。毎月のモニタリングは全員で行い、職員全体でカバーしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、計画作成担当者は大切なアセスメントとして位置づけて、情報の収集に努めている。	介護記録について、計画作成担当者は大切なアセスメントとして位置づけて、情報の収集に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に応じて、訪問歯科や訪問理容を活用している。以前は訪問マッサージを利用されていた方もおられた。	利用者の要望に応じて、訪問歯科や訪問理容を活用している。近隣の美容室を利用されている方もおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災に関する連携で、避難場所を近隣のお寺やアパート駐車場、川良区公民館にお願いし、地域の消防団との連携もとれている。川良地区の運動公園は地域の高齢者との交流が出来る様になっている。	防災に関する連携で、避難場所を近隣のお寺やアパート駐車場、川良区公民館にお願いし、地域の消防団との連携もとれている。川良地区の運動公園は地域の高齢者との交流が出来る様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医だけでなく、以前からのかかりつけ医への通院の方もおられる。かかりつけ医との連携もスムーズにおこなえており、サービス担当者会議の照会にも応じてもらっている。	施設の協力医だけでなく、以前からのかかりつけ医への通院の方もおられる。かかりつけ医との連携もスムーズにおこなえており、サービス担当者会議の照会にも応じてもらっている。	かかりつけ医は利用者の意向に沿ったものである。入居後に協力医を希望した利用者もあるが説明を受け納得しての変更である。また皮膚科や眼科などは入居時にかかりつけを尋ねておりスムーズな受診となっている。職員が付き添う受診では、家族への報告はその結果により当日や後日としている。また家族が付き添う場合は、ケースにより医師に伝える文書を用意することもある。安心して治療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康については職員全体で注意していこうという意識が高く、看護師と介護職員との情報交換がしっかり出来ており、状態の変化を早期に発見し対応出来ている。	利用者の健康については職員全体で注意していこうという意識が高く、看護師と介護職員との情報交換がしっかり出来ており、状態の変化を早期に発見し対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、職員が面会に行き、情報の把握をおこなっている。	利用者が入院した場合は、職員が面会に行き、情報の把握をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針について、ご家族へ説明し同意を得ている。緊急対応協力機関：新武雄病院	重度化した場合における指針について、ご家族へ説明し同意を得ている。緊急対応協力機関：新武雄病院	これまでに看取りの経験はない。重度化や終末期に関わる指針は入居契約時に説明を行っている。医師が重篤であると判断した場合は病院への搬送を行うと明記されているが、それまでは出来る限りの体制を確保するとも謳っている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちに配慮しつつ話し合いを重ねている。安心して納得できる最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にて、応急手当についての勉強会をおこなう予定となっている。夜間の緊急マニュアルも整備している。	事業所内にて、応急手当についての勉強会をおこなう予定となっている。夜間の緊急マニュアルも整備している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害に対する避難訓練及び、火災訓練等を年に6回実施している。避難場所として近隣のお寺(明覚院)とアパート(駐車場)に協力を得ている。	自然災害に対する避難訓練及び、火災訓練等を年に6回実施している。避難場所として近隣の寺院とアパート(駐車場)の協力を得ている。	避難訓練は年6回、火災や自然災害も想定して実施している。時には地元消防団の参加協力もある。時間帯は昼間や夕方の実施である。利用者も一緒に避難を体験し、全ての職員は消火器や通報装置の使い方を承知している。居室や共用部分に避難を妨げるような家具の配置もない。非常食や水等の備蓄もあり、訓練での反省点や指摘は速やかに改善され全員に周知される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者個々のプライバシーに配慮した言葉掛けをおこなうよう心掛けている。	職員は、利用者個々のプライバシーに配慮した言葉掛けをおこなうよう心掛けている。	入居して間もない頃は同性によるケアを心掛けている。接遇研修もある。トイレや入浴の介助は最も配慮を要する場面だが、トイレのドアは閉める、周囲に見え難い立ち位置でのケアするなど、基本的なことをきちんと行っている。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても内容によっては声の大きさにも注意を払っている。ホーム便りや事業所内での写真掲載については入居時に承諾を得ている。前回の外部評価の折に、職員の声かけについて課題として挙げていたが、更なる改善を目指し継続中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自己決定が出来るように支援している。	本人の意思を尊重し、自己決定が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活できるように努めている。	利用者が自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔や整髪、外出時の服装のコーディネートの支援をおこなっている。	朝の洗顔や整髪、外出時の服装のコーディネートの支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を取り入れた献立を考案し提供している。毎月1日は赤飯と刺身の献立があり、月1回弁当の日も設けている。職員も同じテーブルについて食事をし、食事介助もおこなっている。利用者の中には食後のテーブル拭きやお盆拭きをされる方もいる。	利用者個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を取り入れた献立を考案し提供している。毎月1日は赤飯と刺身の献立があり、月1回弁当の日も設けている。職員も同じテーブルについて食事をし、食事介助もおこなっている。利用者の中には食後の食器洗いやお盆・テーブル拭きをされる方もいる。	基本は法人の管理栄養士が作成するメニューだが、利用者に食べたいものを尋ね変更することもある。各々のアレルギー有無や好き嫌いを把握し、苦手な食材やメニューでは代替えも用意される。なかなか箸が進まない方には声掛け等で促し、食が細い方には高カロリー食の常備もある。利用者に合わせた形状での提供やすくい易い器、軽いコップや滑り止めなどを工夫し出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう支援している。職員は同じテーブルで弁当を開き、介助や見守りしながら食べている。誕生日は当日に祝い、ケーキなどが用意される。年を重ねる毎に利用者の手伝いは減少していくが、出来ることを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、1日1600Kcalで献立が制作されており、個々の食事量や水分量のチェックをしており、食事及び水分を十分確保できるように支援している。個々に合わせた食事形態で、刻み食やミキサー食にて提供する方もいる。	栄養士により、1日1600Kcalで献立が制作されており、個々の食事量や水分量のチェックをしており、食事及び水分を十分確保できるように支援している。個々に合わせた食事形態で、刻み食やミキサー食にて提供する方もいる。水分にトロミをつけている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をおこなっている。口腔ケアが十分に出来ない方に対して、口腔ケア用のウェットティッシュにて拭き取り介助をおこなっている。協力歯科医院に定期的に受診する方もいる。	毎食後、口腔ケアの支援をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄リズムに合わせて排泄介助をおこなっている。排泄チェック表の活用や排泄のサインの観察をし、個々の排泄習慣やパターンの把握に努めている。日中は3分の2以上の利用者がトイレで排泄出来ている。	利用者の排泄リズムに合わせて排泄介助をおこなっている。排泄チェック表の活用や排泄のサインの観察をし、個々の排泄習慣やパターンの把握に努めている。日中は9名中8名の利用者がトイレで排泄出来ている。	排泄に関して完全に自立した方もいるが、任せたままでなくさりげない見守りを行っている。日中は殆どの利用者がトイレで排泄をしている。チェック表により誘導のタイミングが計れることで、入居後にオムツやパット類の使用枚数が減った利用者もある。これは自己負担の軽減にも繋がっている。トイレ内の手摺りは立ち座りを助ける補助具として役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。水分補給や適度な運動の機会を設けている。毎日ヨーグルトと牛乳を提供している。	排便の有無を毎日確認している。水分補給や適度な運動の機会を設けている。毎日ヨーグルトと牛乳、又はヤクルトを提供している。主治医と相談し整腸剤を服用されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴日を設けている。入浴を嫌がられる方に対しては、日にちを変更したり、更衣や清拭などで対応し無理強いせず支援している。	週2～3回の入浴日を設けている。	決められた入浴日はあるが、風呂の準備は毎日できており、希望や必要があればその限りではない。入浴剤を使うこともあり、一人ずつ寛いでもらっている。個別にシャンプー等を用意している方もあり自由である。入浴を拒む方にはタイミングをずらしたり、清拭等に変更して清潔保持に努めている。各所に手摺りが設置され安全にも配慮している。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員は見守りの支援である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	自分のペースで、好きな時間に休 息してもらっている。室温や寝具の 調節に配慮している。	自分のペースで、好きな時間に休 息してもらっている。室温や寝具の 調節に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	看護職員が管理し、副作用等の説 明を職員へおこなっている。管理 についてはマニュアルを作成し、誤 薬事故の防止に努めている。誤薬 があった場合には、看護師に報告 し医師より指示を貰うようにして いる。	看護職員が管理し、副作用等の説 明を職員へおこなっている。管理 についてはマニュアルを作成し、誤 薬事故の防止に努めている。誤薬 があった場合には、看護師に報告 し医師より指示を貰うようにして いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	利用者個々の力量を把握しており、 その人に合わせた役割づくりに努 めている。又、個々の趣味への関 心を示しサポートしている。	利用者個々の力量を把握しており、 その人に合わせた役割づくりに努 めている。又、個々の趣味への関 心を示しサポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している	花見や紅葉見物等、季節を感じら れるような外出の支援をおこなっ ている。又、天気の良い日は利用 者の希望でドライブや散歩に出掛 けている。テラスや玄関外にて外 気浴をおこなうこともある。	花見や紅葉見物等、季節を感じら れるような外出の支援をおこなっ ている。又、天気の良い日は利用 者の希望でドライブや散歩に出掛 けている。テラスや玄関外にて外 気浴をおこなうこともある。	本人の口から外出の希望が聞かれ ることは殆どないが、話題を振れ ば興味は示してくれる。行事計 画で予定しているものは法人の大 型車椅子対応車両を借りることが でき、みんなで出掛けている。事 業所の車ではドライブも交代とな るが、出来るだけ想いに浴えるよ う努めている。また周辺への散歩 は日常的に行っており、近所の方 達と挨拶を交わし、五感の刺激や 日差しを浴びるメリットも生んで いる。全く外へ出ないという利用 者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人でお金の管理をしている方はいない。欲しい物がある場合は、ご家族へ連絡しお願いしている。	利用者個人でお金の管理をしている方はいない。欲しい物がある場合は、ご家族へ連絡しお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも自由に電話をしてもらっている。	希望があれば、いつでも自由に電話をもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面飾りを利用者と共に制作し、季節感を感じられるようにしている。居間にはテレビを配置し、好きな番組を観てテレビ視聴を楽しんでもらえるようにしている。	壁面飾りを利用者と共に制作し、季節感を感じられるようにしている。居間にはテレビを配置し、好きな番組を観てテレビ視聴を楽しんでもらえるようにしている。	建物は口の字形に造られ、中央は空が見える中庭である。木製デッキのためサッシ戸を開ければ日向ぼっこや洗濯物干し、時にはランチに使うこともある。利用者の動線に通行を妨げる物はない。道路脇ではあるが車の騒音は殆ど気にならない。24時間換気システムが稼働する中、時折窓やサッシ戸を開ける換気も行っている。手を触れる箇所の消毒も時間を決め行い衛生面への配慮が窺える。トイレや浴室もきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を活用することにより、一人でも、気の合った利用者同士でも、思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々が自分のペースで過ごされている。	食堂と居間を活用することにより、一人でも、気の合った利用者同士でも、思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々が自分のペースで過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室は、基本的には利用者本人の 好みで自由にしてもらっている。本 人が利用しやすい様に心掛けて支 援している。使い慣れた馴染みのも のを持参されたり、ご家族等の写真 を飾ったりして利用者が安心して過 ごせるような居室となっている。	居室は、基本的には利用者本人の 好みで自由にしてもらっている。本 人が利用しやすい様に心掛けて支 援している。使い慣れた馴染みのも のを持参されたり、ご家族等の写真 を飾ったりして利用者が安心して過 ごせるような居室となっている。	火気等の危険物以外に持ち込む品 物の制限はない。使い慣れた物を 持参してもらうよう伝えている。居室 にはベッドと整理タンスが備えてあ り、クローゼットもあることで四季の 衣服やオムツ類も収納され、きれい に片付いている。各居室担当の職 員は衣替え等に配慮し、寝具類は 定期的に変換されている。壁に掛け られたコルクボードには家族の写真 や行事での笑顔などが貼られ、そ れぞれに過ごしやすい雰囲気が作 られている。窓が出窓タイプのため 心なしか広く感じられ、花や小物を 飾る利用者もあって程よいスペース となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	利用者個々の「出来る事」を把握 し、そつと見守りをしながら、必要な 時に手助けが出来る様にしている。	利用者個々の「出来る事」を把握 し、そつと見守りをしながら、必要な 時に手助けが出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない